

- 高齢者総合ケアセンター星の里 (久保町) TEL (0848) 37-7272
- ワークスさつき (美ノ郷町) TEL (0848) 48-5900
- むかいしま作業所 (向島町) TEL (0848) 44-6460
- 尾道福祉専門学校 (久保町) TEL (0848) 37-2222
- 尾道さつき作業所 (久山田町) TEL (0848) 23-8004
- 尾道サンホーム (木ノ庄町) TEL (0848) 48-4070
- すだちの家 (御調町) TEL (0848) 77-1122
- 児童発達支援センターあいあい (木ノ庄町) TEL (0848) 40-0073

昨年7月から、民間企業と共同で手作りチョコレートの開発を行いました。ONOMICHI U2でパークチョコレートブランドとして販売しています。民間企業と連携することにより、パッケージデザインやニーズ把握など、企業の視点の獲得や販売ルートを確認し、食品事業の新たな可能性を広げています。

本格的なチョコレートを作るため、プロによる指導を受けました。ガーナ産のミルクチョコレート。ベトナム産のダークチョコレート。2種類のチョコレートで製造販売活動を展開しています。



ONOMICHI U2で販売中

KuruKuruショコラのツリーができました

黒いシールがダークチョコ、
白いシールがガーナミルクチョコ



また、昨年12月から見た目が可愛く、プレゼントにピッタリなホットドリンク用のKuruKuruショコラや、バレンタインに向けての新商品も販売しております。

パッケージには利用者さんが描いた絵を使用しており、「どの絵も个性的で素晴らしい」とお客様から好評を頂いています。

寒さの残るこの季節に手作りチョコレートの豊かな味わいをお楽しみ下さい。

本格 手作りチョコレート 絶賛販売中

〜大海原を航海する小舟のように〜

尾道さつき作業所 松山 明代

120ccの牛乳に
溶かすのがベスト



パークチョコレートは自施設でカカオ豆から焙煎、殻むき、精練というすべての工程を行うというスタイルをとっています。このスタイルでは手間を惜まず、丁寧な作業が必要です。そのため製造工程では多くの利用者さんが関わることが出来ます。

パークチョコレートの「パーク」とはフランス語で小舟を意味し、波や風を受けながらも、小さな小舟が大海原に向かって航海してほしいという意味です。市場に出ていくチョコレートに対する私たち作り手の願いが込められたブランド名になっています。

公開療育で活発な意見交換 ～「幸せの予感がする療育」を目指して～

児童発達支援センターあいあい 三藤 加奈子



▲あいあいの取り組みを報告しました

広島県東部の14施設22事業所の療育機関から構成される広島県東部幼児通園療育機関協議会(幼通協)は、心身に障害を持つ乳幼児の早期発見、早期療育と福祉の向上を目指し、巡回療育相談や療育関係機関の資質向上を目的に長年活動を続けています。

その活動のひとつとして、公開療育が毎年行われています。11月20日、当センターが担当した公開療育には、12施設21名の方にご参加いただきました。

公開療育に向けて日々の取り組みを見直す中で、沢山の問題点や課題が浮上りました。その一つ一つを職員間で共有して改善に取り組み迎えた公開療育。午前中に生き生きと活動する子ども達の様子や取り組みを見ていただき、午後からは、実践報告と研究協議を行いました。

参加者からは「職員が一人一人に丁寧に寄り、子ども達が安心感や信頼感を持って活動している姿が印象的だった」「環境設定や道具の作り方も参考になった」など、貴重な意見や感想をいただきました。幼通協会長・塩出順子先生からは「あいあいに来られる子は幸せ。幸せの予感がする療育を!」と総評をいただき公開療育を終えました。

この経験を生かし、子ども達の幸せを願って、更なる療育活動の充実に向けた取り組みを行っていきます。



▲午前中の活動の泥んこ遊び

「にゃをり」の知名度アップ

むかいしま作業所 大月 多恵

むかいしま作業所の「手織り屋おのみち」ブランドがスタートして1年が経ち、宣伝キャラクターとして誕生した「にゃをり」も1歳を迎えました。

まだまだPRの道半ばで、「はっさくん」の知名度にはほど遠いのですが、着々とキャラクター効果が表れ始めており、近頃は「にゃをり」をあしらったネックストラップが売れ筋ナンバーワンです。商品を身に付けている人を見て、他事業所からも商品がほしいとの声がかかるようになり、各種イベントへの出店時も特製ののぼりが目を引き、少しずつですが確実に売り上げが伸びてきています。

今後は、「尾道えもんや」出店者での新たな土産品の開発プロジェクトや、尾道より根づいていけるように販売の機会を重ねていくことで、これまで以上に質の高い、選ばれた商品作りに取り組んでいきたいと思っています。



▲「にゃをり」ののぼりでPR

助成の交付がありました。

このたび(公財)中央競馬馬主社会福祉財団から助成を受け、左記の事業を完了しました。



施設名称..尾道さつき作業所

寄付者一覧

(一〇二四年八月〜二〇二四年十一月・順不同敬称略)

〔寄付金〕 芦田孝子、廣谷毅、鼻孝子、村上裕子、黒田範雄、府中地区労働者福祉協議会、ささき小児科医院、永正寺、尾道サンホーム保護者会

〔寄付物品〕 松上和代、福田富雄、すだちの家保護者会

お詫びと訂正

2015どんぐり工房カレンダーに誤った記載がありました。

壁掛け用カレンダー表紙の作者が「佐藤信夫」さんとありますが、正しくは「佐藤伸夫」さんです。関係者の皆様にはご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

編集後記

パークチョコレートはカカオ本来の酸味や苦味、香りが特徴的な本物志向のチョコレート。開発中には数えきれないほど試食も……。当初は食べ慣れない味に戸惑いもありましたが、今では有名店のチョコレートよりもお気に入り。素材にこだわっているため、義理チョコで贈るには少し高く感じますが、これからの季節、プレゼントや自分へのご褒美におひといかがですか。

シリーズ

福祉のしごと 障害児・者施設編

サポート&ケアセンター・フレンズ
高橋 宏滋

<サポート&ケアセンター・フレンズの概要>

フレンズは、障害のある方の暮らしを支援するグループホームです。男性11名、女性2名の計13名の方が利用され、30代から80代と幅広い年齢層の方が暮らしています。1日1人の体験利用も行っています。全室個室でプライベートな空間と家庭的な温かい雰囲気大切にしています。



▲使った食器は自分で洗います

<その人らしい生活スタイル実現へ>

食事作りや館内と居室の掃除など身の回りのことを支援する「世話人」。通院支援や日々の相談にのる「支援員」がいます。業務を行って行く中で大切にしていることは、利用者さんとのコミュニケーションです。家事などを一緒に行い、時間をかけて仕上がりを確認します。その人らしい生活スタイルの実現に役立ちたいと、ゆとりある支援を心掛けています。

充実した生活を目指して

利用者さんの目標は、自分らしく暮らすことです。日中、利用者さんは作業所などに通っています。また、「買い物やプールに行きたい」「ライブに行きたい」など充実した生活を希望されています。駅員さんやコンビニの店員さんなどさまざまな方の協力や移動支援サービス^(※1)は、地域生活を送るのにとっても助かっています。利用者さんがそれぞれに合った暮らしを実現するために多くの人や機関と連携して支援を行っています。



▲帰ってきた利用者さんのお出迎え

※1 移動支援とは、社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をするときに、移動時の介護を提供するサービスのことです。

ケアハウスで楽しみのある生活を

ケアハウス星の里
藤井 友理



▲山陰旅行～出雲大社にて～

ケアハウスは、身の回りのことは自分でできるが、身体機能の低下や高齢等の理由で一人暮らしには不安があるという60歳以上の方が生活しています。個室(13室)と夫婦部屋(1室)があり、各部屋にはキッチンや洗面台トイレが設置され、皆さんが主体的に生活が送れるようになっています。また、買い物や昼食会などの外出、一泊旅行や忘年会などの企画もあります。

今年の一泊旅行は山陰方面に行きました。出雲大社や境港などの観光地を巡り、夜はおいしい山陰の旬の料理とお酒に舌鼓を打ちながら楽しい2日間を過ごすことが出来ました。入居者さんの中には「来年も参加するよ」「来年こそは参加したい」と旅行に参加することを目標にされ、健康維持に努めている方もおられます。これからも入居者さんが健康で楽しみのある生活を続けられるように支えていきます。

ケアマネジャーの専門性確立に力

～県ケアマネマイスターに認定されて～

星の里居宅介護支援事業所 邑岡 志保

尾道市は高齢化率32.2%で超高齢社会の真ただ中にあり、高齢者のみならず支える家族や地域の問題にも寄り添いながらの支援が求められています。私達ケアマネジャーは、利用者さんやご家族と共に考え、利用者さんの声に具体的に添えていく存在であり、必要とされる技術はコミュニケーション力とマネジメント力です。私は、根拠を持ってその技術を駆使していきたいと心がけてきました。

この度、広島県ケアマネマイスターに認定されたことを機に、星の里は勿論、尾道市のケアマネジャー全体が根拠のある幅広い支援ができる専門集団として更に確立されるよう、その一翼を担える存在に成長していきたいと思っています。



▲ケアマネマイスター授与式

【注釈】
ケアマネマイスターとは、全国に先駆けた広島県独自の制度として、現場の第一線で活躍されている介護支援専門員(ケアマネジャー)の中から特に優れた方が「ケアマネマイスター広島」として県知事から認定されます。

スポーツテンカ 体験会

～ワッキーさんが直接指導～ 尾道福祉専門学校 國岡 義広

ワッキーさんと
直接対決!



年ごとに試合を行いました。さらには、ワッキーさんと直接対決も実現!
体験会終了後に、スポーツテンカプロデューサーのワッキーさんから子どもたち一人一人に、「スポーツテンカ普及リーダー証」が授与されました。
ワッキーさん、ガリットチュウさんから「スポーツテンカを広めていきましょう」とメッセージ。
やってみたい、地域の行事で取り入れたいなど、本校では、「スポーツテンカ」をはじめ、「レクリエーション指導」、「親子で体験ミニ介護の体験会」など、PTC活動や学校行事等に指導者、ボランティアの派遣も行っております。お気軽にご相談ください。



参加者全員で

楽しく体験できました

11月24日に、向島マリンユースセンターで、(公財)日本レクリエーション協会と吉本興業、本校で、スポーツテンカ体験会を開催しました。
午前は、スポーツテンカの普及審判員講習会を実施。スポーツテンカの基本を学び、様々な技や審判方法などをお笑い芸人のワッキーさん、ガリットチュウさんから直接指導いただきました。
午後からの子ども体験会では学

今津野の家で ケアラーズカフェ

～家族介護を考える～

今津野の家 谷 頼誠



最後に音楽ボランティアの方が、ギター演奏をし、その場を和やかに包んでいました。
当事業所は、今後も尾道市キャラバンメイト連絡会協力のもと、毎年1回、認知症勉強会を開催する予定です。皆様に役立ててもらえる地域密着型の施設を目指します。

11月29日に今津野の家で尾道市北部地域包括支援センターとの共催で介護者らの語りの場として「ケアラーズカフェ」が開かれました。地域の方やスタッフら23名が参加しました。
始めに、当事業所の利用者家族が介護体験談を発表。認知症を思い、サービス事業者の選定に苦労したことや、認知症であることを堂々と地域に公表することの重要性などの話しが聞かれました。参加者の中には胸にこみ上げ涙する方も多数おられました。
発表後には、発表者お手製のわらび餅をカフェ形式でいただきました。場の雰囲気も良く、自然と会話が弾みました。その中で、それぞれの悩みを出し合いました。参加者からは大きく分けて3つの悩みが出ていました。1つ目は「デイサービスでは元気だが、家にいると無気力となる」「意欲低下」。2つ目は「他人と家族の区別がつかず、目を離すと誰かについて行ってしまおう」という「環境不適合」。3つ目は「暴力を日常的に振るってしまうことや、寝ないで夜間に家族を起こす等の」「興奮、暴力、不眠」。このように様々な悩みに対する家族の思いを聞きました。これに対し、認知症アドバイザーの方が家族の思いに寄り添った的確なアドバイスをしてくれました。



▲音楽ボランティアによる、シャンソンや歌謡曲の演奏